

令和6年度 第2回（第29回）四国中央市子ども・子育て会議 議事要旨

○ 日 時 令和6年10月29日（火） 13:30～15:00

○ 場 所 市民交流棟 2階 会議室

○ 委員出席状況

【出席】

委員長	宮崎 さゆり	(四国中央市民生児童委員協議会)
副委員長	三宅 彩香	(あやか助産院)
委員	大西 誠治	(市民公募)
委員	高橋 紀子	(市民公募)
委員	中西 かふみ	(NPO法人ふれあい)
委員	土肥 義紹	(学校法人金生幼稚園理事長)
委員	近藤 裕美	(四国中央市立北保育園長)
委員	藤枝 俊之	(病後児保育ルーム エミリア)
委員	藤川 美江	(育児サークル「リトル☆スター」)
委員	近藤 望	(市PTA連合会)
委員	中田 信也	(四国中央地区労働者福祉協議会)
委員	星川 隆志	(四国中央市社会福祉協議会事務局長)
委員	大西 緑	(四国中央市子ども若者発達支援センター長)

【欠席】

委員	神野 茂	(四国中央市立北金生第一小学校長)
委員	藤中 美咲	(三島東幼稚園PTA副会長)

【事務局】

福祉部長	細川
こども家庭課長	合田
こども家庭課	坂田、近藤
生活福祉課課長	田邊
生活福祉課	青木、山川

【傍聴者】

0名

○ 次第

1. 開会
2. 部長あいさつ
3. 「とりのこさない支援体制整備事業」について
4. 議事
 - (1) 四国中央市こども計画骨子案について

5. 閉会

○ 議事内容

次第3. 「とりのこさない支援体制整備事業」について

〔事務局〕生活福祉課共生社会推進係より説明

(質問・意見)

〔委員〕事業内容から市の体制(人員)は足りるのか。

対応する課が複数あるが、生活福祉課の担当係がコーディネーターの役割になるのか。

現在行っているケースはどこからの情報なのか。市役所のどこへ行けばいいのか市民には分かりにくい。

〔生活福祉課〕現在の体制、人数でコーディネーター的な役割と考えているが、今後さらに内容を精査していきたい。

現在のケースがどこからかは把握できてない。現在は、各ケースの方向性を決めていく手伝いをする。令和7年度からは各相談機関に相談があったとき、庁内、連携各機関で共通意識をもって取り組めるよう、どこに行っても適切な所につないでもらえるという安心感を市民に持ってもらえるよう取り組んでいる。

〔委員〕こども計画の話になるが、支援者側の声が盛り込めていない。どういう形で地域を作るか盛り込んでいけたら良いと思う。

【議事】

(1) 四国中央市こども計画骨子案について

〔榎ぎょうせい〕資料1, 資料2説明

〔委員長〕質問や意見を伺いたい。

(質問・意見)

〔委員〕誰のための計画か。親目線は見えるが子どもの姿が見えない。

子どもの遊び。子どもにとっての遊びは学び。公園を含めたまちの環境をどういう形にするかが落ちている。

より高い教育を目指す子への計画を望む声が多く聞かれるのにその視点がもりこまれていない。

資料1の61ページを見ると、ものすごく評価が低い。この地域がより活力を上げていく上で重要なテーマのような気がするので、方策や骨子の中でどうやって取り込んでいくかを考えていかないといけないように思う。

四国中央市でできること。民間の活力も活用した計画の在り方を方向性として示すべきだ。三世代交流についても時代に沿った更新がないままの記載になっている気がする。

〔事務局〕子どもの遊び場、学び場がないという声について、5月に「子育て環境整備基本構想」を立ち上げた。施設や公園の整備など関係各課と連携しながら取り組んでいきたいと思う。

〔委員〕こどもの最終的な着地点は資料1の61ページに集約されていると思う。重要視するべき。今の若者の自己肯定感はどうか表れている。

子どもの居場所づくりについて子ども達がどんな居場所を求めているのか、キャッチボー

ル式で子ども達の意見を拾ってもらえるといいと思う。

子どもが疑問に思った時、対等に大人と対話できるような環境が必要である。

〔委員〕 母親と子どもとの精神的な繋がりが大事。親を見ていなくても子どもは感じ取る。親子の信頼関係が大事。

〔委員〕 それぞれの要素を吟味しないといけない。心をどういう形で育てていくか。資料2の15ページ基本目標3推進施策1に心の問題が入っている。

〔事務局〕 計画策定に向け、子どもや若者にも生活実態調査、意識調査等行い、8月には児童生徒の集まった「四国中央市いじめ stop 愛顔の子ども会議」で意見を拾ってみた。
意見の中に地域の人とのふれあいが自信にもつながったなどがあり、独自の施策として既にある施策を今後も進めていきたいと計画に記載している。

〔委員〕 複数の担当課を書いている箇所もある。取組について1課しか記載がないところは、複数あってもよいのではないか。
子ども自身が考え、発言、自由に行動することが欠けている。育成部分で教育、子ども・子育ての観点で必要だ。

〔委員〕 生きる力そのものは防災に現れる。
生きる力として、小さい頃からどうやって親が子どもの健康を管理するか、子どもが自分の健康をどのような形で身に着けていくのか、健康教育が計画に反映されるべき。

〔委員〕 食育についても食物に関する意識向上が必要だ。

〔委員〕 子ども・子育て会議は少子化対策が根底にある。四国中央市は近隣に比べて減少が著しいと聞く。アンケートをとり、市独自の骨子を作っている。骨子は全て網羅されているが四国中央市が力を入れているところの話は議会でされるのか。自分の思いだと0歳児から5歳児に力をいれてほしい。

〔事務局〕 基本的にこの会議で案を作成し、市の内部の調整会議、議員全員の勉強会に諮った後、市民から広くタウンコメントを受け、最終的に内部の調整会議に回り施行という流れ。

〔委員〕 骨子には良いものが沢山あるので、優先順位を決めていったらよいと思う。

〔委員〕 賛成だ。重要度、緊急度が見えるとより良くなる。

〔事務局〕 この計画は国のこども大綱や愛媛県のこども計画をベースに策定される。市独自の施策は各課が現在も実施中で、特に重点的に少子化対策に力を入れている。プロジェクトを立ち上げいろいろな事業を推進している。今問題は、広報部門なので強化するため取り組もうとしている。

〔委員長〕 以上で議事を終了する。

〔事務局〕 第3回、第4回の会議日程について

〔委員〕 優先順位など話ができていないことなどはメールでも受け付けてもらえるのか。

〔事務局〕 可能である。

会議終了